

# 東日本ユニオンにいがた

http://niigatachihon.yukigesho.com/

JR東日本労働組合新潟地方本部

2020年12月15日発行

第2号(通巻第169号)

発行者: 星山 圭 編集者: 教育・広報部

## JR労働者の安心・安定した生活実現のため 全組合員とつながり、職場から運動をつくりだそう!

### JR東日本労働組合新潟地方本部 第9回定期大会

新潟地方本部は11月27日、新潟市万代市民会館において第9回定期大会を開催しました。新型コロナウイルスが再び感染拡大傾向にあることを十分認識し、代議員と地本役員のみでの招集として、会場入り口での検温・手指の消毒実施や飛沫防止の亚克力板の設置、会場内の適宜換気や使用の都度マイクを消毒するなど、感染拡大防止に努めた中で開催しました。



### 組合員に責任をもつ労働組合として たたかいを止めることなく前進しよう!

星山執行委員長あいさつ



い結果となったが、ネガティブな声からスタートして、職場での声を2、2ヶ月では足りないというものへと変えてきた。

年末手当が欲しいという思いや要求満額を出せる根拠を一人ひとりが出

中、東日本ユニオンに新たな加入があった。新潟地本として全組合員で歓迎の取り組みを行い当該地本にお渡しした。みんな

喜び合いたい。コロナ禍の中にあつて心配や不安を持って今大会に参加されている方もいると思う。万全の対策をとつた中で開催する。

コロナ禍の中でも業務を全うしなければならぬ、労働組合として組合員に責任を持つのかという課題に向き合ってきた。

どのように運動を進めていくのか悩みながら、本部のガイドラインに沿つた中で支部・分会で会議や集会等を開催し、職場でのたたかいを創り出していただいた。

地本も地方委員会以降18の申し入れを行い、団体交渉を積み上げてきた。年末手当は率直に悔し

質疑では10名の代議員から発言を受けました。「コロナ禍における運動の悩み」「2020年末手当のたたかひ」「職場環境の改善への取り組み」など、いずれも職場からのたたかひに根差した教訓に富んだ内容でした。

### 一年間のたたかひの教訓を全体で確認

たたたかひが年末手当につながっていることが確認できた。追加申し入れでたたかひが継続できた。春闘に結びつく総括と意思統一を行つていく。

現場での取り組みを通じて改善してきた発言が多くあった。団体交渉にも現れている。業務が柱となつて拡大が両輪となる運動を地本もつくっていく。

コロナ以前には当たり前に出たことが制限され、会えない中でも丁寧な運動を創り出してきたとの発言があった。

しかし会えない課題はコロナ前からあった。この克服もされていると思う。

発想から、どうしたらできるのか、考えながら行動して頂いている。感染防止対策を再度徹底し、組合員が安心して参加できる取り組みを作っていく。

年末手当について、0.8ヶ月分の追加支給要求を提出し諦めない姿勢を示した。組織の内外から注目、期待を集めた。

経費の使い方を含め経営側の姿勢を正すなど議論を尽くした。短期間の中で組合員間、12地本間の一休感を作り出せたと感じているし、若い仲間の加入が実現した。

結成から12月で丸7年、結成の意義と目的を振り返る必要がある。心新たに東日本ユニオン運動を作り出していこう。



大会をスムーズに進行した齋藤議長



藤本中央執行委員長

現場の実態を変えるまで取り組む。たたかひを通じて組織力をつけていく。業務・組織が両輪となるようトライしていく。

コロナ禍において自衛隊の命を守り、生活を守るため、これからは変わらず運動を作り出していく。

業務課題を解決さえすれば組織が拡大するわけではない。職場からの取り組みにかかっている。根拠が各地に足を運んでいく。温泉での会議開催など

が実現した。

社員と会社幹部の感覚に乖離が生じている。赤字下での会社施策に対して地本は団交を行う。職場からもチェックしていこう。

年末手当のたたかひは、投稿の取り組みなどを通じて組合員の想いが交渉団と一体化することで追加申し入れまでたたかひ抜くことが出来た。ネガティブな職場を改革してきた。春闘へとつながる運動を今日からスタートさせよう。

